２年次を終えて

看護学科第 43 期生　小久保　宏美

看護師の資格を取得するまで准看護学校から通算５年という年月は、看護学生として学び始めた当初はとても遠く長い道のりに感じていました。しかし、気づけばもうその半分以上を過ごしてきたことになります。振り返れば、楽しかったことも苦しかったこともたくさん思い出されます。そして、いま現在も准看護師として病院勤務をしながらの学業の両立は決して楽ではありません。勤務を終えて帰宅してから課題や試験勉強に追われることも、夜勤明けの授業は疲労と睡魔に打ち勝って臨む必要があることも、つらくなることは何度もありました。しかし、看護職として仕事をする日々は自分にとって有意義で、まだ道半ばですが看護の道を選んだことに後悔はありません。これまでの過程には、家族や、職場の同僚や上司、学校の仲間、先生方など多くの人たちの支援や協力があるということに深く感謝しています。

２年次はグループ発表や博愛祭のブース運営など、チームによる協同学習の機会が多くありました。グループワークを円滑に進めるためには、各々が自分の強みを発揮しながら主体的に活動し、グループの一員として責任をもって役割を果たすことであると考えます。そして、お互いに相手を尊重しながら相互に補い合うことでより充実した活動につながることを学びました。年齢も境遇も様々で個性豊かな人たちの集まりですが、同じ目標に向かって同じ時間を共有してきたことでお互いを知り、認め合える仲間になったと感じます。

来年度は看護学生として最後の１年となります。現在は新型コロナウイルス感染が収束の見通しとなり、ようやくコロナ禍以前の日常が戻りつつある状況です。３年次の臨地実習は例年通りに行えるようですが、感染が完全に終息したわけではないため、感染対策や体調管理の徹底を継続し、状況変化に対応できるよう準備をしていきたいと思います。臨地実習では、これまで学んできた知識や技術を実践に生かす能力の習得を目指します。不安や心配は尽きませんが、クラスの仲間が私にとっては心強い存在であり一緒に乗り越えていきたいと思います。その先の看護師資格取得まで、クラス全員で同じ目標に向かって頑張っていきたいです。苦労しながらも努力し学んできたことがきっと成果につながると信じて、クラス目標の「刻苦勉励」の言葉を改めて胸に刻んで邁進していきたいです。